



フリーライター

高橋奈央さん



Interview  
キーマンに  
聞く

## 情報発信でファンの心をつかむ

いちのせきハラミ焼を通じて一関市を全国の人に知ってもらうにはコツがあると思います。地域のお祭りや、全国で開かれるグルメ展への参加などに加え、フェイスブックなどソーシャルネットワークを使っての口コミの拡散が重要になってくるでしょう。

ご当地グルメは「いつでも、そこにある」と「心もお腹も満足させてくれる」という安心感が大切。ハラミと聞けば牛と思う人が多い中、鶏という素材はヘルシーで健康志向やダイエットにもピッタリ。絶妙な甘辛い味はご飯のおか

ずにも、お酒のおつまみにもピッタリ。共感賛同できる「いいね!」ポイントが高いのは間違いありません。

ご当地とは、他の土地の人が敬意を表して訪問した土地をいう言葉。観光や出張などで遠方から訪れた人々から認知されるよう、駅名の周知や観光地でのサービス充実も合わせて行いたいところ。「根付かせて拡散」と「拡散して根付かせる」。両方を同時進行して「いちのせきハラミ焼を食べに行こう!」と一関を訪れる人が増えることを願っています。

天に星が輝いていても、夜空を見上げなければ、その輝きを知ることはない。同様に、地域に目を向けなければ、古里の価値や魅力に気付くことはない。「灯台下暗し」と良くいわれる。豊かな自然、美しい景観、清浄な水、澄んだ空気が新鮮な食材など、私たちが日常見ているもの、触れているもの、食べているものは、それ自体が一関の魅力として、訪れた人たちから評価されているものだ。中でも地元食材で作る料理は最たるもの。地域によって味や調理方法に違いを出せる食は、最も独自性を打ち出せるテーマの一つ。その土地の気候や風土とも縁が深く、旬の料理、伝統食や郷土料理は、先人たちの知恵の結晶である。なじよったべ隊は、鶏ハラミという希少な資源にさまざまな角度からアプローチして、ご当地グルメ「いちのせきハラミ焼」を生み出した。

### 古里に眠る宝物を探す

鶏肉は、古くから室根地域の人たちに愛され、食べられてきた伝統食。つまり、変わったのは素材ではなく、それを資源にまちづくりに挑んだヒト、モノ、コトである。年齢、性別や職業の異なる27人が、B-1グランプリ出展という共通の夢を実現するために知恵と力を結集した。このプロセスこそ、協働の原点と言えるだろう。心一つにして、いくつもの困難を乗り越え、夢を実現していったその姿は、多くの人に勇気と希望を与えた。鶏ハラミという資源は「いちのせきハラミ焼」というご当地グルメに発展し、B-1グランプリへの扉を開いた。山本鶏総裁は「B-1グランプリの出演効果は絶大。新聞、テレビ、雑誌など、多くのメディアに取り上げられた。自分たちの夢は、いちのせきハラミ焼を地域活性化の呼び水に、元気な一関をつくること。そのためには、メディアに取り上げてもらうのではなく、自らタイムリーで効果的な情報を発信することが大事」と、ホームページ、フェ

イスブック、ツイッターなどSNS(\*3)を活用した情報発信に力を入れた。ご当地グルメという「成果」を、今度は「資源」として捉え、そこから新たな発展可能性を探り、進化していくことが大事だ。「資源」は生かすことで「成果」へと発展する。しかし、成果も放っておけば、いつかは「風化」してしまう。これまで、それぞれの分野で進化してきた個々の成果を、組み合わせたり、融合させたり、パッケージングしたりすることで、そこに新しい価値や魅力を生み出す、新しいまちおこしの考え方が必要ではないだろうか。まずは、地域の資源を総点検しよう。それは古里の宝物を探す長い旅だ。それぞれ独自に進化してきたモノ。それぞれ独自に活動してきたヒト。それぞれ独自に発展してきたコト。これらを組み合わせることで、今までになかった化学反応が起きる。あなたが探し出した宝物こそ、まちおこしの新しい資源になるのだ。

\*3 SNS:ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Social Networking Service)とは、日記やメッセージなどを通じて、友人や知人、共通の趣味を持つ人々とインターネット上でつながるサービス

## 新たなムーブメントは情熱によって巻き起こる

いちのせきハラミ焼  
なじよったべ隊 鶏総裁

山本 郷さん



## 古里の愛を信じて

愛と情熱で、信じた道をひた走る雄姿はたくましい。真っ直ぐな思いが紡ぐ物語は、人から人へと連鎖する。やがては未来を切り開き、次代をけん引する力となる。

隊設立から3年目の秋、山本鶏総裁はこう語る。「私の夢は一関が誇りに思えるまちになること。市内だけでなく、一関を離れて暮らしている人たちに、夢、希望、感動や勇気を与えたい。私たちの活動を知った人たちに『一関、頑張っているな』と感じてもらえれば、それがまちの発展につながっていく。夢の実現には『あきらめない心』が必要。どれだけ大きなことをするかよりも、どれだけ思いを込めることができたかが大事。私たちは情熱と行動力を持って取り組んでいます。温かく人を迎え、愛と情熱を持って接することを心掛けています。あいさつ、感謝の気持ちなど、人情あふれるおもてなしの心こそ、全国に誇れる一関の魅力だと信じています。」

まちおこしのカギは、それに取り組む人の本気度にある。地域の資源を、価値を、魅力を、どれだけ真剣になって探し出し、発信していけるかが重要だ。

まちおこしの源流は情熱